

子どもオンブズパーソン制度・子ども条例委員会

日野ネットは「日野市子ども条例」(2008)策定に深く関わるとともに、条例に定めた救済と検証の機関の設置を求め続けてきました。長年の悲願であった子どもオンブズパーソン制度と子ども条例委員会がようやく始動(2024)。検証をふまえながら、子どもの権利の具現化



市が作成した啓発ツール

を更に進めます。

白井なおこ

日野・生活者ネットワーク この4年間の成果

日野・生活者ネットワークは1990年に市議会へ議員を送り出して以来、「市民自治」をモットーに政策をつないできた地域政党です。白井なおこの議会質問や日野ネットの働きかけが実現に結びついたものをご報告するとともに、今後の展望をお伝えします。

公共施設への再生可能エネルギー導入

まずはカワセミハウス1ヶ所から始まり、それが32ヶ所に、そして主たる公共施設への導入へと展開(2024)。電気代だけでない、何から作られた電気を使うのが大切です。地域から脱原発、そしてカーボン・ニュートラルを!エネルギーの地産地消を進める、地域エネルギー会社の設立を目指します。



江戸川区の取り組みを視察

気候非常事態宣言・気候市民会議

「あなた方は、自分の子どもたちを何よりも愛していると言いながら、その子の目の前で子どもたちの未来を奪っています。」グレタ・トゥーンベリ(環境活動家)さんの言葉を引用し、求めてきた気候非常事態宣言の発出(2022)、気候市民会議の開催(2023)。市の姿勢、市民の提言を後押しします。



できることから今日から始めよう!と街頭で

すべての政策にジェンダーの視点を!ジェンダー主流化

日野ネットは、意思決定の場にもっと女性を!と女性管理職を増やす取り組みや、副市長2名体制ならば、1名を女性にと求めてきました。日野市政初となる女性副市長が誕生(2022)。すべての政策にジェンダーの視点を入れ、ジェンダー平等を足元から進め、暮らしやすい社会の実現を目指します。



オリジナル「ジェンダーかるた」より「やっぱりね」とあきらめないで「ガラスの天井」

選挙公報2022での白井なおこの提案の検証

提案がすべて実現していないことは率直に認め、引き続き求め続けてまいります。

ケアラー支援条例

条例制定までこぎつけていませんが、ヤングケアラーをはじめ「ケアラー」という言葉は浸透しました。

子どもたちの第三の居場所

市と市民団体をつなぎ開設につなげたり、周知をはかりました。

脱プラスチック

気候市民会議からの提言の推進体制として、環境保全課から環境政策課へと提案、実現。

コロナの状況に応じた宿泊医療体制

コロナ禍の検証報告を求めるにとどまりました。

公文書管理

次年度から協議をはじめることを確認、条例制定の必要性を訴えました。

白井なおこの4つの提案(2026市議選政策)

みんなで創ろう
まち
日野のこれから



♥SOSが届くまち

♥食とエネルギーの地産地消を

♥グリーンインフラを活かすまち

♥じっくり対話で市民自治